

1. 科目名 (単位数)	心理的アセスメント／心理検査法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP1110						
2. 授業担当教員	大島 朗生								
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項（理論や施行法）を身に付けるために、演習を重視する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 検査者・被検査者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。</p>								
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定技術の基礎的な技術を身につけ、活用できる。								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	代表的な心理検査について、基礎的な知識が身につけていることを確認するためのレポート課題を課す。レポート課題は全部で3本程度課す予定でいる。								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 松原達哉 編『臨床心理アセスメント 新訂版』丸善出版、2013。 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。 ※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費（検査用紙代等）が必要な場合がある。 委細は開講時に説明する。</p> <p>【参考書】 松原達哉・福島脩美 編『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』金子書房、2011。 松原達哉 編著『第4版 心理テスト法入門』日本文化科学社、2004。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスカッションに参加し、自分の意見を述べるができる。 2. 心理検査の概要について理解を深め、適切な発表ができる。 3. 心理検査について学んだことについて、明瞭かつ論理的な文章で説明ができる。 <p>○評定の方法</p> <p>受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢、心理検査に関する発表、課題レポート等を総合して総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2. 心理検査に関する発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3. 課題レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table>			1. 受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢	30%	2. 心理検査に関する発表	30%	3. 課題レポート	40%
1. 受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢	30%								
2. 心理検査に関する発表	30%								
3. 課題レポート	40%								
12. 受講生へのメッセージ	他の授業との関係で、重複して取り扱われる心理検査が出てくるのが考えられるため、心理検査法で取り扱う心理検査の詳細については開講時に改めて周知する。 授業を通じて、心理アセスメントについて理解を深め、自分自身を再発見することを期待している。								
13. オフィスアワー	授業開講時に周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	臨床心理査定概論	事前学習	教科書の第1章を熟読し、「臨床心理アセスメントの目的」についてまとめる。						
		事後学習	心理アセスメントの目的について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。						
第2回	臨床心理査定の種類	事前学習	教科書の第3章を熟読し、「心理検査の種類と内容」についてまとめる。						
		事後学習	心理査定の内容について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。						
第3回	心理検査各論Ⅰ 発達検査1	事前学習	教科書の第4章を熟読し、「発達検査総論」の要旨をまとめる。						
		事後学習	発達検査について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。						
第4回	心理検査各論Ⅰ 発達検査2	事前学習	教科書の第4章を熟読し、「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」の概要についてまとめる。						
		事後学習	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。						
第5回	心理検査各論Ⅱ 知能検査1	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「知能測定の意義と目的」についてまとめる。						
		事後学習	知能測定の目的について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。						
第6回	心理検査各論Ⅱ 知能検査2	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「ビネー式知能検査」の概要についてまとめる。						
		事後学習	ビネー式知能検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。						
第7回	心理検査各論Ⅱ	事前学習	教科書の第5章を熟読し、「WISC-IV」の概要に						

	知能検査 3		ついてまとめる。
		事後学習	WISC-IVについて、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 8 回	心理検査各論Ⅱ 知能検査 4	事前学習	教科書の第 5 章を熟読し、「高齢者の認知機能に関する検査」の概要についてまとめる。
		事後学習	高齢者の認知機能に関する検査について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 9 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査） 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「人格検査の種類」についてまとめる。
		事後学習	人格検査の種類について、グループディスカッションをした内容を整理してまとめる。
第 10 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査） 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TEG」の概要についてまとめる。
		事後学習	TEG について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 11 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査） 3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「YG 性格検査」の実施方法についてまとめる。
		事後学習	YG 性格検査の実施方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 12 回	心理検査各論Ⅲ 質問紙法（性格・人格検査） 4	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「YG 性格検査」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	YG 性格検査の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 13 回	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（不安・ストレス検査） 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SDS」の概要についてまとめる。
		事後学習	SDS について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 14 回	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（不安・ストレス検査） 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ISE-R」の概要についてまとめる。
		事後学習	ISE-R について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 15 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 16 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の採点方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの採点方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 17 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の解釈方法についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 18 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 4	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「ロールシャッハテスト」の理論的背景についてまとめる。
		事後学習	ロールシャッハテストの理論的背景について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 19 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 5	事前学習	配付資料を熟読し、「ロールシャッハテスト」の事例について理解する
		事後学習	ロールシャッハテストの事例に関して、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 20 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（ロールシャッハテスト） 6	事前学習	配付資料を熟読し、「ロールシャッハテスト」の結果をどのように活用するかについて理解する
		事後学習	ロールシャッハテストの結果の活用方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 21 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（TAT） 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TAT」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	TAT の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 22 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（TAT） 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「TAT」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	TAT の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 23 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（SCT） 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SCT」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	SCT の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 24 回	心理検査各論Ⅴ 投影法（SCT） 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「SCT」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	SCT の解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 25 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 1	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「バウムテスト」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	バウムテストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 26 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 2	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「バウムテスト」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	バウムテストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第 27 回	心理検査各論Ⅵ 描画法 3	事前学習	教科書の第 6 章を熟読し、「人物画テスト」の施行方法についてまとめる。

		事後学習	人物画テストの施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第28回	心理検査各論VI 描画法4	事前学習	教科書の第6章を熟読し、「人物画テスト」の採点方法・解釈方法についてまとめる。
		事後学習	人物画テストの解釈方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第29回	心理検査各論VI 描画法5	事前学習	配付資料を熟読し、「動的家族画」の施行方法についてまとめる。
		事後学習	動的家族画の施行方法について、体験学習を踏まえて振り返りを行う。
第30回	まとめ	事前学習	教科書のすでに学習した部分を熟読して、記憶が曖昧な部分を明確にしておく。
		事後学習	学習した内容を再度整理しておく。